

2016年 11月 4日



平成29(2017)年2月10日(金)～2月26日(日)

[15日間・月曜休館／10時～20時、最終日18時まで／入場無料(定員制のプログラムは有料)]

会場 | 東京都写真美術館／日仏会館／ザ・ガーデンルーム／

恵比寿ガーデンプレイス センター広場／地域連携各所 ほか

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

開催によせて |

第9回恵比寿映像祭に向けて

第9回恵比寿映像祭は、東京都写真美術館のリニューアル・オープン後、初の開催となります。休館中の二年間にも、多大なお力添えを頂きました地域の皆様、関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

恵比寿映像祭は、東京都・恵比寿から世界に発信するアートと映像の祭典です。国内外からジャンルを横断した多彩な作品とゲストを迎え、映像文化の現在を紹介し、表現の可能性を追求いたします。今回の「マルチプルな未来」というテーマは、映像の複製可能性から、わたしたちのアイデンティティや未来の多様な展開を考える試みです。4年後には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、海外からも多くのお客様が訪れます。芸術鑑賞の体験を通じて、異文化への理解を深め、多様な価値観を尊重することは、より豊かな文化創造の土壌を育むことでしょう。

会期中は、恵比寿地域にある文化施設やギャラリーなどの会場で連携企画が開催されます。あわせてご覧頂きますよう、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後も恵比寿映像祭の一層の発展に努めてまいりますので、引き続き御支援、御協力をお願い申し上げます。



公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館長 伊東 信一郎

開催概要 |

恵比寿映像祭は、年に一度、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、シンポジウム、レクチャーなどを複合的に行うことを通じて、映像分野における創造活動の活性化と優れた映像表現やメディアの発展を過去から現在、そして未来へといかに関承していくかという課題について、繰り返し問い直し、対話を重ね、広く共有する場となることを目指す、映像とアートの国際フェスティバルです。

東京都写真美術館リニューアル・オープン後の初の開催となる今回は、ふたたび東京都写真美術館全館をメイン会場として、休館中に深めた地域とのつながりを加え、さらなる充実をはかります。

- [名称] 第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2017: Multiple Future
- [会期] 平成29(2017)年2月10日(金)～2月26日(日)[15日間・月曜休館]
- [時間] 10:00～20:00(最終日は18:00まで)
- [会場] 東京都写真美術館／日仏会館／ザ・ガーデンルーム／
恵比寿ガーデンプレイス センター広場／地域連携各所 ほか
- [料金] 入場無料 ※定員制のプログラム(上映、ライブ、レクチャーなど)は有料
- [主催] 東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)／
日本経済新聞社
- [共催] サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
- [後援] オーストラリア大使館／オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラム／J-WAVE 81.3FM
- [協賛] ANA／東京都写真美術館支援会員
- [協力] KyotoDU／ぴあ株式会社／ドゥービー・カンパニー株式会社／
株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット ほか

[公式HP] www.yebizo.com

総合テーマ |

マルチプルな未来 Multiple Future

映像やメディア技術の発達は、世界の見え方を変えるだけでなく、わたしたちの身体やそれをとりまく社会のあり方にも少なからず影響を与えてきました。複数の他者と同時に接続可能となったグローバルな情報ネットワーク社会。そこでは、不特定多数との情報共有や自由な増殖・派生を前提とした新しい創造の形が生まれる一方で、個々人のあり方や関係性もまた大きく変質しています。複製可能であること、マルチプルに（同時に多数）存在すること。それはオリジナルだったはずのものへの疑問符となります。マルチプルな（多くの部分や要素が織りなす）営みの果てに、「未来」は刻々と形作られています。「未来」は既にわたしたちの中でも起こっているのです。

第9回恵比寿映像祭では、「マルチプルな未来」を総合テーマに、複製技術をとまなう映像の特質と、その発達とともに個人や社会にもたらされている変化が指し示すものについて考えたいと思います。

恵比寿映像祭ディレクター

岡村恵子

トピックス |

多くの要素が織りなす営みの果てに「未来」は刻々と形作られる。
—マルチプルな未来

多彩な映像表現をアートの視点で見つめる国際フェスティバル「恵比寿映像祭」が、リニューアル・オープンした東京都写真美術館に帰ってきます。この間培った地域連携とともに、さらにヴァージョンアップして開催いたします。

|| 東京都写真美術館リニューアル・オープン後、初の開催

約2年の改修工事を経て、2016年9月にリニューアル・オープンした東京都写真美術館。生まれ変わった全館のスペースをあますことなく活用し、実施します。

|| 総合開館20周年記念事業

2015年に総合開館20周年を迎えた東京都写真美術館。2016年のリニューアル・オープンとともに、総合開館20周年記念事業を打出しました。恵比寿映像祭もこの対象事業です。世界多都市間連携と地域連携の双方からの強化により、国際映像祭として更にバージョンアップいたします。

|| 地域とのつながりを深化させた映像祭

美術館休館中の過去の2回は、点在する会場を巡る回遊型の映像祭を行いました。そこで深めた地域とのつながりを更に発展させ、地域活性化拠点のフェスティバルとして機能していきます。

|| 現代社会の課題と映像の特性の両輪で考える包括的テーマ

映像とは何かについて問いと答えを提示し続けてきた恵比寿映像祭。総合テーマ「マルチプルな未来」のもと、映像やメディア技術の発達が、個人や社会のあり方にもたらす変化について探ります。

|| 地域と世界を双方向につなぐ国際フェスティバル

国内外から集められた優れた映像表現を恵比寿の地から世界に向けて発信します。実績のある海外著名作家の紹介とともに、国際的な躍進が期待される国内若手・中堅作家の特集や、「映像とダンス」といった他ジャンルとの横断性など複数の切り口から成るプログラムでお届けいたします。

出品予定作家 | ※本リリース時点の出品予定作家です。

展示	石川卓磨 ISHIKAWA Takuma
上映	ナンシー・D・ケイツ Nancy D. KATES
展示	ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング Robert KNOTH & Antoinette DE JONG
展示	レイ・レイ LEI Lei
上映	リン・ルー Lynn LOO
上映	マヌ・ルクシュ、マルティン・ラインハルト、トーマス・トーデ Manu LUKSCH, Martin REINHART, Thomas TODE
展示	ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノ Gabiella MANGANO & Silvana MANGANO
展示	ズビグ・リプチンスキー Zbig RYBCZYNSKI
展示	笹本晃 SASAMOTO Aki
展示	澤田知子 SAWADA Tomoko
展示	コルネリア・ゾルフランク Cornelia SOLLFRANK
展示	峯利子 TAKASHI Toshiko
上映	フィオナ・タン Fiona TAN
展示	豊嶋康子 TOYOSHIMA Yasuko ほか

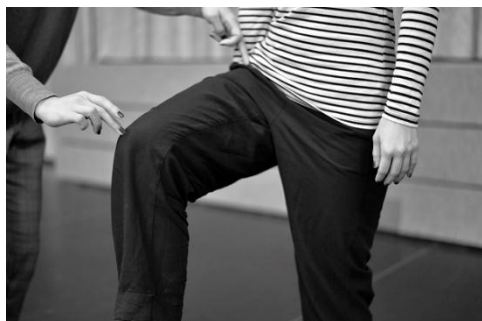
※出品作品および出品作家など内容については、変更する場合があります。予めご了承ください。

出品予定作家 |

石川卓磨

ISHIKAWA Takuma

展示



1979年千葉県生まれ、東京都在住。美術作家、美術批評。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。近年の展覧会に「教えと伝わり」(タリオンギャラリー、東京、2016)、「石川卓磨×山本良浩展 responsive/responsible」(テコギャラリー、青森、2016)、「カメラのみぞ知る」(ユミコチバアソシエイツviewing room shinjuku、東京、2015)など。近年の評論に「ポストアプロプリエーションとしての写真」(『カメラのみぞ知る』カタログ、ユミコチバアソシエイツほか、2015)など。

石川卓磨《教えと伝わり》2016年
ISHIKAWA Takuma, *Lessons and Conveyance*, 2016
Courtesy the artist and Talion Gallery

ナンシー・D・ケイツ

Nancy D. KATES

上映



サンフランシスコ・ベイエリア(アメリカ)在住。スタンフォード大学ドキュメンタリー映画学科での修了制作《彼ら自身のヴェトナム》(1995)で高い評価を得る。公民権活動家の草分け的存在で、公にゲイであることを自認していた故バイヤード・ラスティンに関するドキュメンタリー《ブラザー・アウトサイダー》(2003)で、GLAADメディア賞(アウトスタンディング・ドキュメンタリー賞)など25種以上を受賞。

ナンシー・D・ケイツ《スーザン・ソntagについて》2014年
Nancy D. KATES, *Regarding Susan Sontag*, 2014

ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング

Robert KNOTH & Antoinette DE JONG

展示



1963年ロッテルダム(オランダ)生まれ/1964年ティルブルフ(オランダ)生まれ、ボルフハーレン(オランダ)在住。写真家ロバート・ノースと、ドキュメンタリー制作者のアントワネット・デ・ヨングの2人は、有害廃棄物、アフガニスタンのヘロイン取引、放射線による後遺症などの社会的なテーマを扱う写真・映像作品で国際的に知られる。近年は、より自主的で長期にわたるドキュメンタリーに取り組んでいる。

ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング
《ポピー:アフガン・ヘロインをたどって》2012年
Robert KNOTH & Antoinette DE JONG, *Poppy: Trails of Afghan Heroin*, 2012

出品予定作家 |

レイ・レイ

LEI Lei

展示



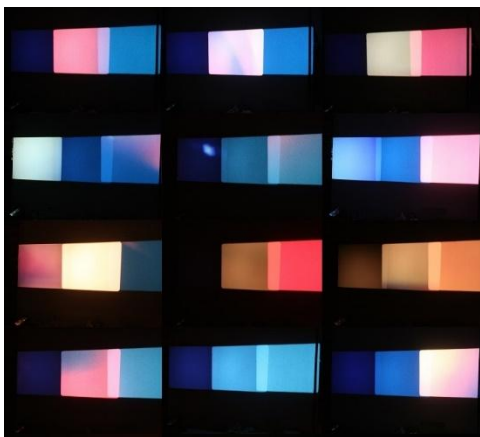
1985年南昌市(中国)生まれ。中国の卓越したアニメ作家の一人。2010年《This is LOVE》がオタワ国際アニメーション映画祭でベスト・ナラティブ・ショート受賞。2013年には《Recycled》がアヌシー国際アニメーション映画祭に招待、オランダ国際アニメーション映画祭ではノン・ナラティブのグランプリ受賞。翌年、ザグレブおよびオランダ国際アニメーション映画祭の審査員に選ばれるほか、アジア・カルチュラル・カウンシルの助成を得る。

レイ・レイ《本の上の本》2013年－
LEI Lei, *Books on Books*, 2013-

リン・ルー

Lynn LOO

上映



シンガポール生まれ。音楽を学んだ後渡米、シカゴ美術館附属美術大学で映画を学ぶ。数々の映画祭、展覧会、アートフェスティヴァルで映画作品、パフォーマンス作品を発表。また映画のキュレーションおよび、フィルム・ワークショップを行う。現在イギリスに在住し、これらの活動を続けながら、英国映画協会にてフィルム・コンサヴェーションリストとして所属している。

リン・ルー《エンド・ロール》2009年－[参考図版]
Lynn LOO, *END ROLLS*, 2009- [reference image]

マヌ・ルクシュ、マルティン・ラインハルト、トーマス・トーデ

Manu LUKSCH, Martin REINHART, Thomas TODE

上映



マヌ・ルクシュ

Manu LUKSCH

ウィーン(オーストリア)／ロンドン(イギリス)在住。アーティスト、研究者、映画監督。監視社会と情報保護についての作品《フェイスレス》(2002－2007)で高い評価を得る。ティルダ・スウィントンの語りによる、9か国語に訳された《フェイスレス》(2015)は、ボンビドー・センターに収蔵された。Elevate 2015、マリアンネ・フォン・ヴィレマー・デジタルアワード、オーストリア国立メディアアート賞を受賞。ゴールドスミス大学の客員研究員としてスマート・シティを研究中。

出品予定作家 |

上映

マルティン・ラインハルト

Martin REINHART

ウィーン(オーストリア)在住。映画における芸術表現を発展させ、時間と空間の軸を置換するFX tx-transform、ダニー・ボイルやロン・ハワードらに採用されたIndiecamなどのハードウェアや加工技術の開発に取り組む。ウィーン技術博物館のキュレーターとしての研究を通じ、《戦艦ポチョムキン》のエドムンド・マイゼルによるウィーン版のサントラを発見した。

トーマス・トーデ

Thomas TODE

ハンブルグ(ドイツ)在住。ライター、キュレーター、映画監督。専門はエッセイフィルム、ソヴィエトの前衛芸術、政治ドキュメンタリー。「フォト・フィルム！」(ナショナル・ギャラリー、アメリカ、2012/テイト・モダン、イギリス、2010)、「バウハウス・アンド・フィルム」(パービカン・センター、イギリス、2012ほか多数の会場で開催)などの展覧会企画、ヴァン・デル・クーケン、マルケル、ヴェルトフ、ポチョムキンとメイゼルなどについての著書多数。

マヌ・ルクシュ、マルティン・ラインハルト、トーマス・トーデ《ドリームズ・リワイヤード》2015年

Manu LUKSCH, Martin REINHART, Thomas TODE, *Dreams Rewired*, 2015

ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノ

Gabriella MANGANO & Silvana MANGANO

展示



メルボルン(オーストラリア)在住。双子の姉妹の協同により活動。2000年代半ばより、身体像や動き、風景を考察する数々の映像インスタレーションを発表。第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2015-2016)、第5回モスクワ現代美術ビエンナーレ(2013)ほか国内外の展覧会に出品。シドニー現代美術館、ブリスベン近代美術館ほか各地に作品が収蔵されている。

ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノ《そこはそこにはない》2015年

Gabriella MANGANO & Silvana MANGANO, *There is no there*, 2015

出品予定作家 |

ズビグ・リプチンスキー

Zbig RYBCZYNSKI

展示



1949年ウッジ(ポーランド)生まれ、アリゾナ州タスカン(アメリカ)在住。1970年代初めにウッジ映画学校を卒業。HD(高解像度)映像技術の先駆者として知られる映画監督。米国アカデミー賞(1983)をはじめ、世界各地で著名な賞を受賞。2011年からヴロツワフで、ユニークな実験的映画製作・研究機関、音響映像技術センター(CeTA)の計画に尽力(2013年設立)。現在は、米国アリゾナ州に在住し、新たな技術スタジオの設立を準備中。

ズビグ・リプチンスキー《タンゴ》1980年

Zbig RYBCZYNSKI, *Tango*, 1980

笹本晃

SASAMOTO Aki

展示



1980年神奈川県横浜市生まれ、ニューヨーク(アメリカ)在住。コロンビア大学大学院美術課程修了。数学やダンス、美術を学んだ笹本は、自ら綿密にインスタレーション空間を構築し、その中で、自身の身体や言葉、物などを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品で知られている。ホイットニー・ビエンナーレ2010、第9回光州ビエンナーレ(2012)、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015ほかに参加。

<http://www.akisasamoto.com>

笹本晃《ラストコール、誤りハッピーアワー》(パフォーマンス)2015年 [参考図版]

SASAMOTO Aki, *The Last Call, Wrong Happy Hour*, performance, 2015 [reference image]

Photo: Takahiro Iikawa / Courtesy of Parasophia Office

澤田知子

SAWADA Tomoko

展示



1977年兵庫県神戸市生まれ、在住。成安造形大学造形学部デザイン科写真クラス研究生修了。内面と外見の関係性をテーマとしたセルフポートレート作品で知られる。デビュー作《ID400》で2000年度キャノン写真新世紀特別賞、2004年に木村伊兵衛写真賞、ニューヨーク国際写真センターのThe Twentieth Annual ICP Infinity Award for Young Photographer受賞。世界各地で展覧会を開催するほか写真集や絵本を出版。現在成安造形大学客員教授を務める。

<http://www.e-sawa.com>

澤田知子《School Days/A》2004年、東京都写真美術館蔵[参考図版]

SAWADA Tomoko, *School Days / A*, 2004

Collection of Tokyo Photographic Art Museum

[reference image]

出品予定作家 |

コルネリア・ゾルフランク
Cornelia SOLLFRANK



展示

ベルリン(ドイツ)在住。アーティスト、研究者、大学講師。ミュンヘン美術院、ハンブルグ美術大学で絵画を専攻。ダンディー大学(イギリス)でPhDを取得。デジタルメディアを用いた、または主題にした作品を通じて、作者の概念や自己組織化、フェミニズムなどのテーマに取り組む。現在はコモンズおよび、ジェンダーとハッキングの関係を探求している。

コルネリア・ゾルフランク《持たないものを与えること》(マルセル・マースほかへのインタビューを含むアーティストック・リサーチ) 2012年ー

Cornelia SOLLFRANK, *Giving What You Don't Have*, artistic research project including video interviews with Marcell MARS et al., 2012ー

峯利子
TAKASHI Toshiko



展示

大阪府大阪市生まれ、兵庫県伊丹市在住。様々な職業を経て、1998年に《オード1》《西天下茶屋・おおいし荘》(山形国際ドキュメンタリー映画祭、1999)を制作。次作の《Blessed — 祝福—》(ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭、2002)制作後は、主に、身近な風景を延々と撮り続けている。2011年から、ダンサー・振付家の黒沢美香を撮り続けている。

峯利子《Wave 踊る人(仮)》2016年
TAKASHI Toshiko, *Wave: a dancer* [tentative title], 2016

フィオナ・タン
Fiona TAN



上映

1966年プカンバル(インドネシア)生まれ、アムステルダム(オランダ)在住。映像インスタレーションや写真を主たる表現媒体として活躍するアーティスト。作品は世界各地の美術館や国際展で展示されており、2009年のヴェネツィア・ビエンナーレではオランダ館の代表作家となる。東京都写真美術館で企画「フィオナ・タン まなざしの詩学」(2014)を開催するなど日本での発表も多い。《歴史の未来》(2015)は自身初の長編映画。

フィオナ・タン《歴史の未来》2015年
Fiona TAN, *History's Future*, 2015

出品予定作家 |

豊嶋康子

TOYOSHIMA Yasuko

展示



1967年埼玉県生まれ、在住。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。ひとの思考の仕組みに構造的に対応する「模型」を美術作品として制作。あらゆる領域の物質／システムと関わる表現方法を試し続けている。セゾン現代美術館(1990)、水戸芸術館現代美術ギャラリー(1997)、東京都現代美術館(2002、2015)、府中市美術館(2005、2006)ほかで個展、グループ展多数。

豊嶋康子《色調補正-1》(公開制作、府中市美術館)2005年[参考図版]

TOYOSHIMA Yasuko, *Color Compensation-1*, Open Studio Program at Fuchu Art Museum, 2005 [reference image]

Photo: Daisuke Awata

その他企画プログラム |

映像表現の現在をめぐるトーク・セッションおよび実験的なライブ・イベント

- リニューアルされた気持ちのよい2階ロビーの吹抜け空間では、映像の作り手・受け手・担い手が、カジュアルな雰囲気なか、作家や作品の背景に触れる「ラウンジトーク」を開催いたします。映像というメディアについてさらに理解を深め発見を促す機会を提供します。
- 「展示」「上映」プログラムと連動し、映像表現における現在の課題や社会的な動きについて「シンポジウム」を設定し、豊かな議論を喚起していきます。さらに「レクチャー」では、議論の担い手とアーティストが具体的な各論について実践的なトークセッションを行います。
- そのほか、ザ・ガーデンルームでは、実験的なパフォーマンス「イベント」を実施いたします。詳細プログラムの決定は、追って恵比寿映像祭公式ウェブサイト(www.yebizo.com)で発表いたします。

シンポジウム	東京都写真美術館 1F ホール(定員190名/有料チケット制)
レクチャー	東京都写真美術館 1F スタジオ(定員70名/有料チケット制)
ラウンジトーク	東京都写真美術館 2F ロビー(無料)
イベント	ザ・ガーデンルーム(定員150名/有料チケット制)



イベント「動いている庭」パフォーマンス編:《猿蓑- The face of strangers- Hybrid version》平井優子+山内朋樹+古舘健の様子
第8回恵比寿映像祭(会場:ザ・ガーデンルーム)より
©Tokyo Photographic Art Museum 撮影:新井孝明



ヨアン・ヘームスケルク(JODI) [展示出品作家]ラウンジトークの様子
第8回恵比寿映像祭(会場:ザ・ガーデンホール)より
©Tokyo Photographic Art Museum 撮影:新井孝明

地域連携プログラム |

恵比寿の街から映像文化を発信

第3回恵比寿映像祭より実施している「地域連携プログラム」。恵比寿地域に点在する文化施設やギャラリーと連携し、「マルチプルな未来」のテーマに合わせた、それぞれ独自の視点によるプログラムを展開します。これまで培った地域ネットワークの発信力をさらに高めて開催いたします。



会場構成 |

東京都写真美術館

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

- ① 3F・2F・B1F 展示室 展示
- ② 1F ホール 上映 シンポジウム
- ③ 1F スタジオ レクチャー
- ④ 2F ロビー ラウンジトーク

日仏会館

東京都渋谷区恵比寿3-9-25

- ⑤ ギャラリー 展示
- ⑥ ホール シンポジウム

⑦ ザ・ガーデンルーム イベント

東京都目黒区三田1-13-2 恵比寿ガーデンプレイス内

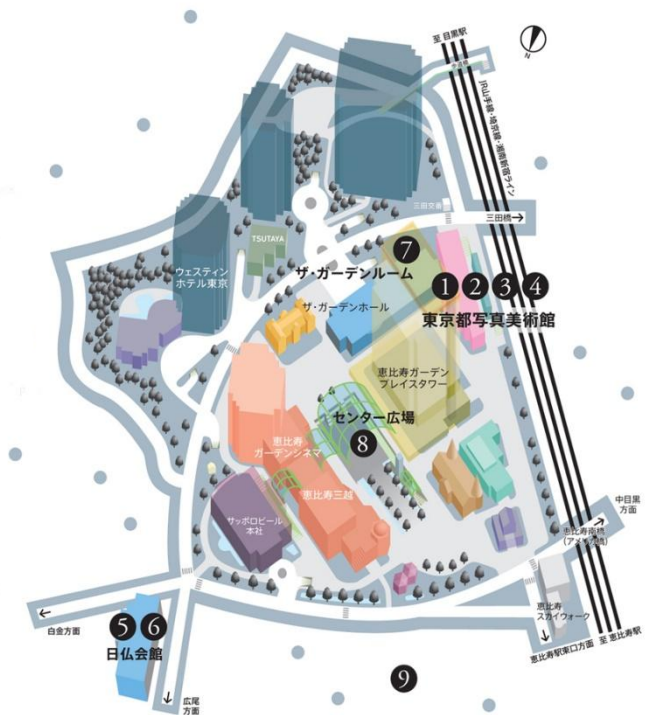
⑧ 恵比寿ガーデンプレイス センター広場 オフサイト展示

東京都渋谷区恵比寿4-20 恵比寿ガーデンプレイス内

⑨ 恵比寿地域文化施設およびギャラリーほか 地域連携プログラム

参加施設・団体:

公益財団法人日仏会館 | TMF日仏メディア交流協会、YEBISU GARDEN CINEMA、伊東建築塾、MA2Gallery、Gallery工房親、MuCuL studio、NADiff a/p/a/r/t、G/P gallery、MEM、statements、WAITINGROOM、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]、AL | TRAUMARIS、LIBRAIRIE6



【恵比寿映像祭に関するお問合せ】 ※ 報道・媒体関係者様のお問合せに限らせていただきます。

恵比寿映像祭担当(東京都写真美術館):柳生(やぎゅう)、印牧(いんまき)
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3恵比寿ガーデンプレイス内
電話:03-3280-0099/ファクス:03-3280-0033/E-mail:yebizo_press@topmuseum.jp

【プレスリリース/広報用画像/ご取材に関するお問合せ】

恵比寿映像祭プレス担当:平(たいら)、大西(おおにし)
電話:090-1149-1111(平) 090-9621-5235(大西)/ファクス:03-3468-8367/E-mail:info@tmpress.jp

※ 本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しております。
ご希望のプレスの方は、①ご希望画像の作品名 ②貴媒体名 ③掲載予定時期
を表記のうえ、上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※ 12月に作家作品の詳細決定後、2次リリースを発表予定です。
詳細は、恵比寿映像祭公式サイト(www.yebizo.com)でお知らせいたします。

※出品作品および出品作家など内容については、変更する場合があります。予めご了承ください。